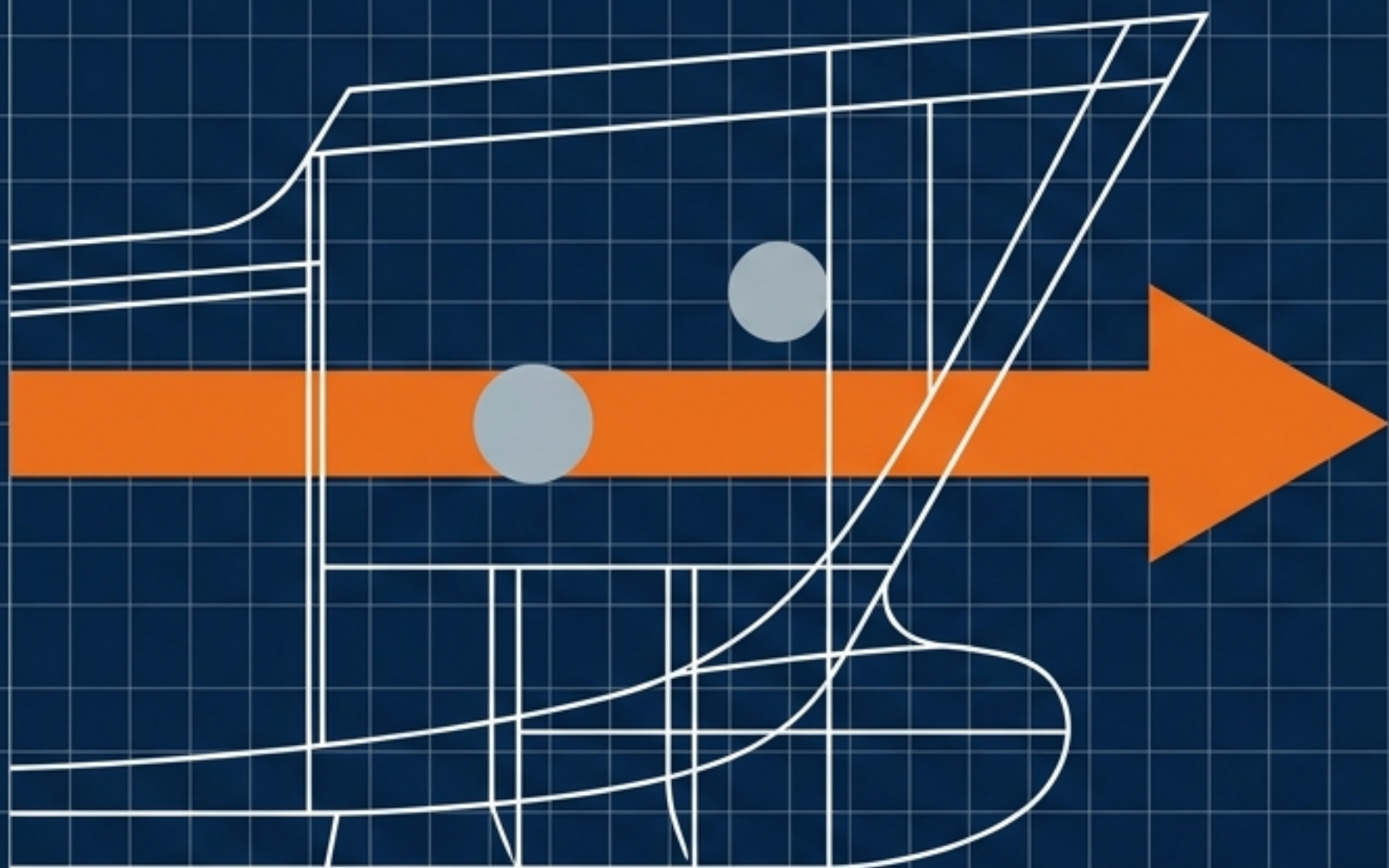


船が進めば、 自分も進むという錯覚

乗客感覚と乗組員感覚の決定的な差





**船が進むことと、
自分が成長することは別である。**

- ・ 熱心な仲間がいる。
- ・ 学べる環境がある。
- ・ 高い基準に触れている。

**しかし、そこにいてだけで自分も
成長していると思ったら勘違いだ。**

「所属」と「成長」の方程式

$$[\text{環境}] + [\text{滞在}] = \text{所属} \quad \text{🔒}$$

「ここで学んでいる」は、所属の説明だ。

$$[\text{環境}] + [\text{行動変化}] = \text{成長} \quad \text{↑}$$

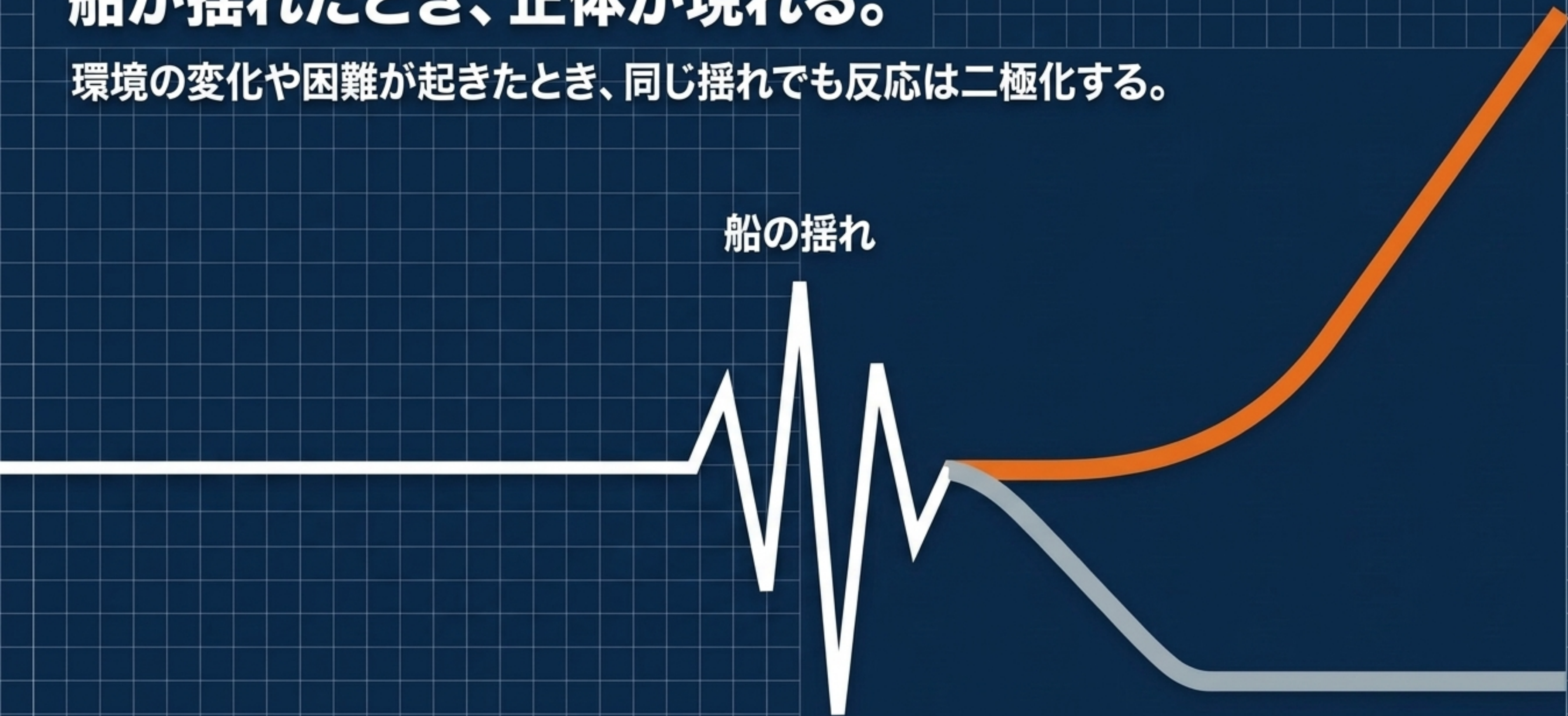
「学んで、これを変えた」が、成長の説明だ。

船に乗ったことを、成長の証にしてはいけない。

船が揺れたとき、正体が現れる。

環境の変化や困難が起きたとき、同じ揺れでも反応は二極化する。

船の揺れ

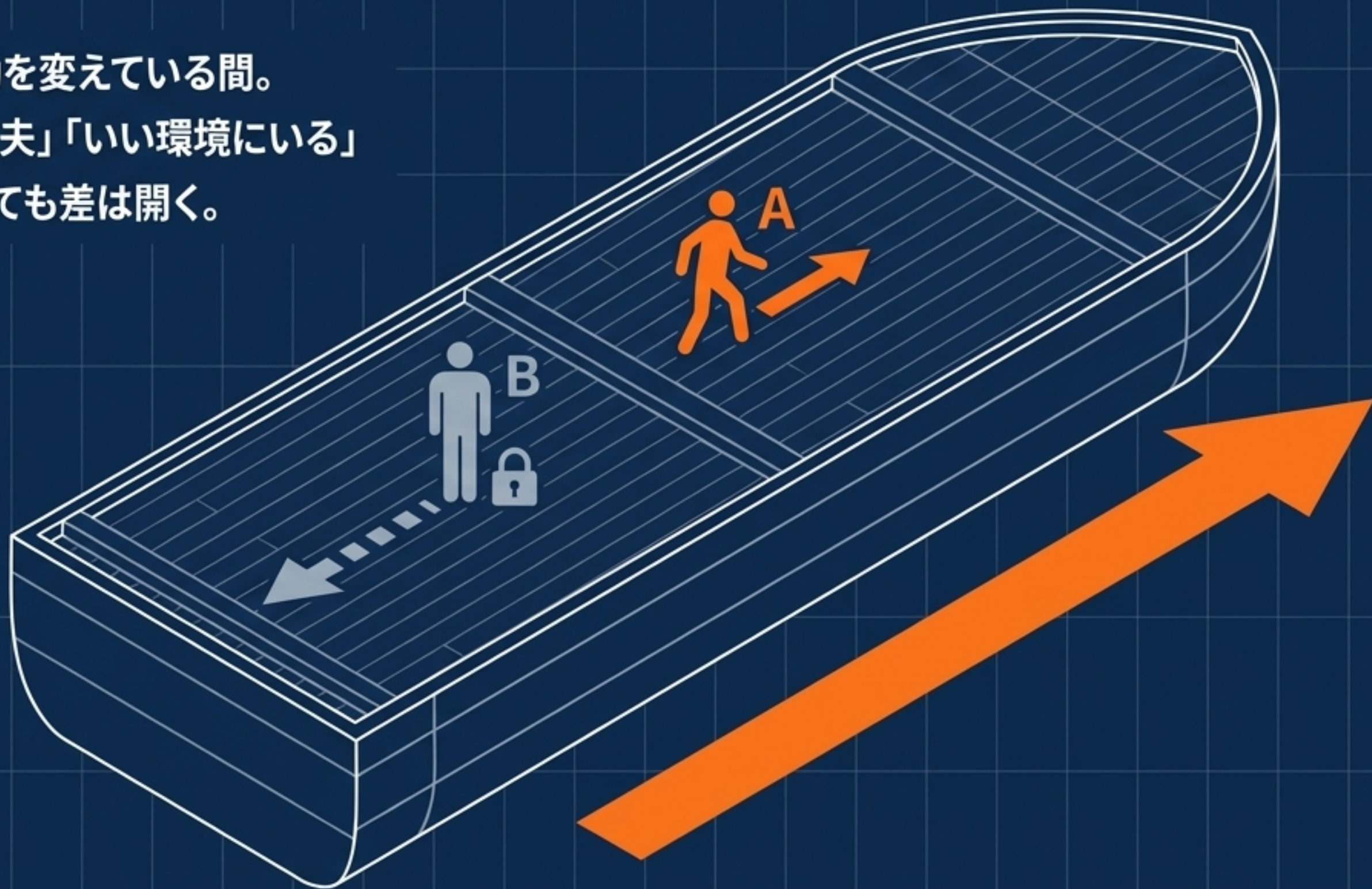


反応の分岐図：あなたはどちらのパラダイムにいるか？

比較次元	乗客感覚	乗組員感覚
前提となる意識	お金を払い、運んでもらう存在	共に船を進める当事者
環境変化への第一声	「なんで揺れるんですか？」	「風向きが変わったな」
過去への執着と適応	「前はこうじゃなかった」	「自分の動き方を変えよう」
フォーカスする対象	自分の居心地の悪さ	仲間のために何ができるか
結果の出力	誰かへの 不満 に変換	自分の 行動 に変換

誰も落とそうとしていないのに、落ちてしまう。

仲間が学び、昨日を疑い、行動を変えている間。
自分だけが「乗っていれば大丈夫」「いい環境にいる」
と安心していると、同じ船にいても差は開く。



共有した時間が、共有した成長になるわけではない。

同じ話を聞き、同じ場所で練習し、同じ時間を過ごす。
それでも、その後の行動で決定的な差が生まれる。

成長度

見えにくい差

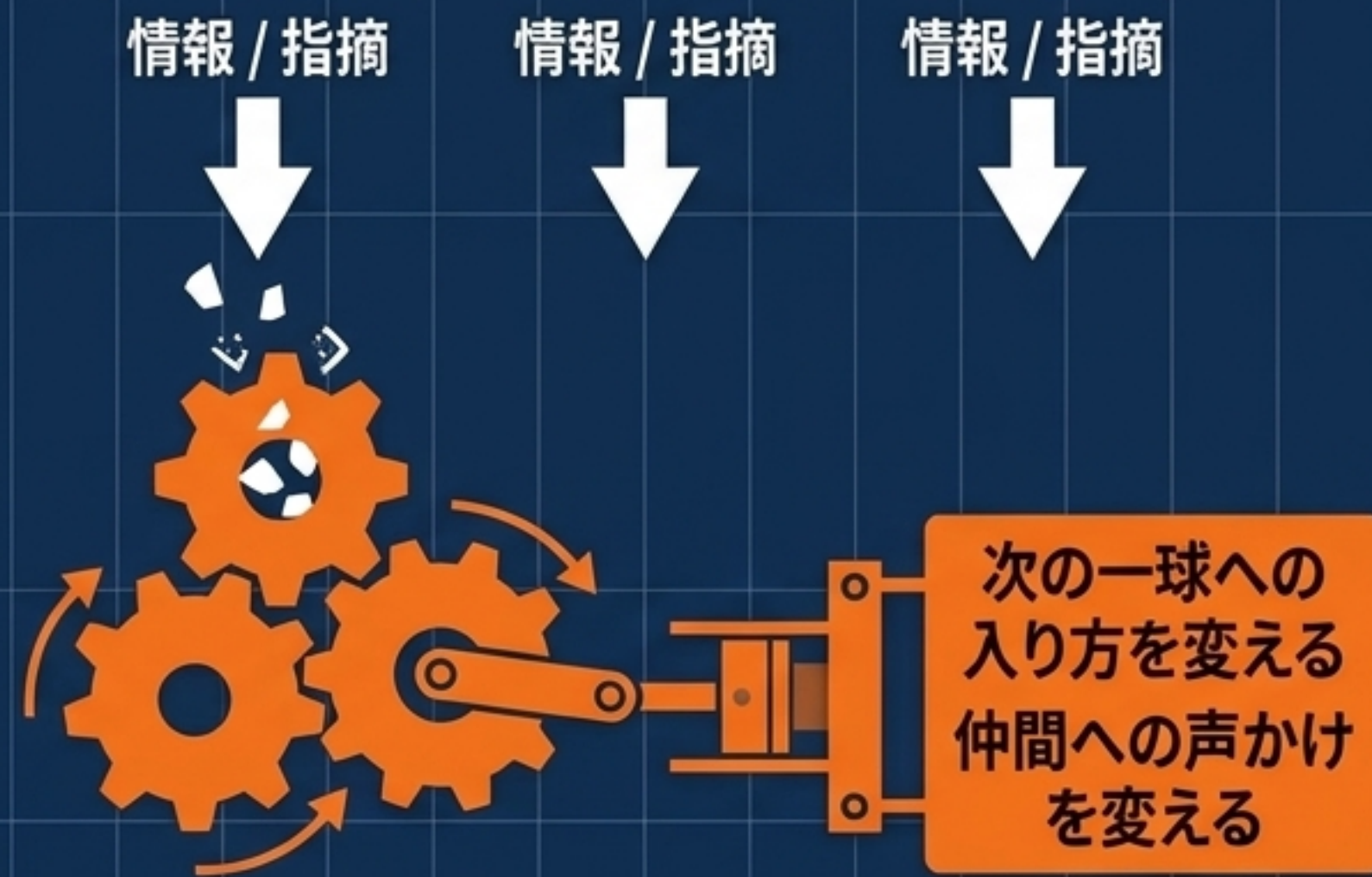
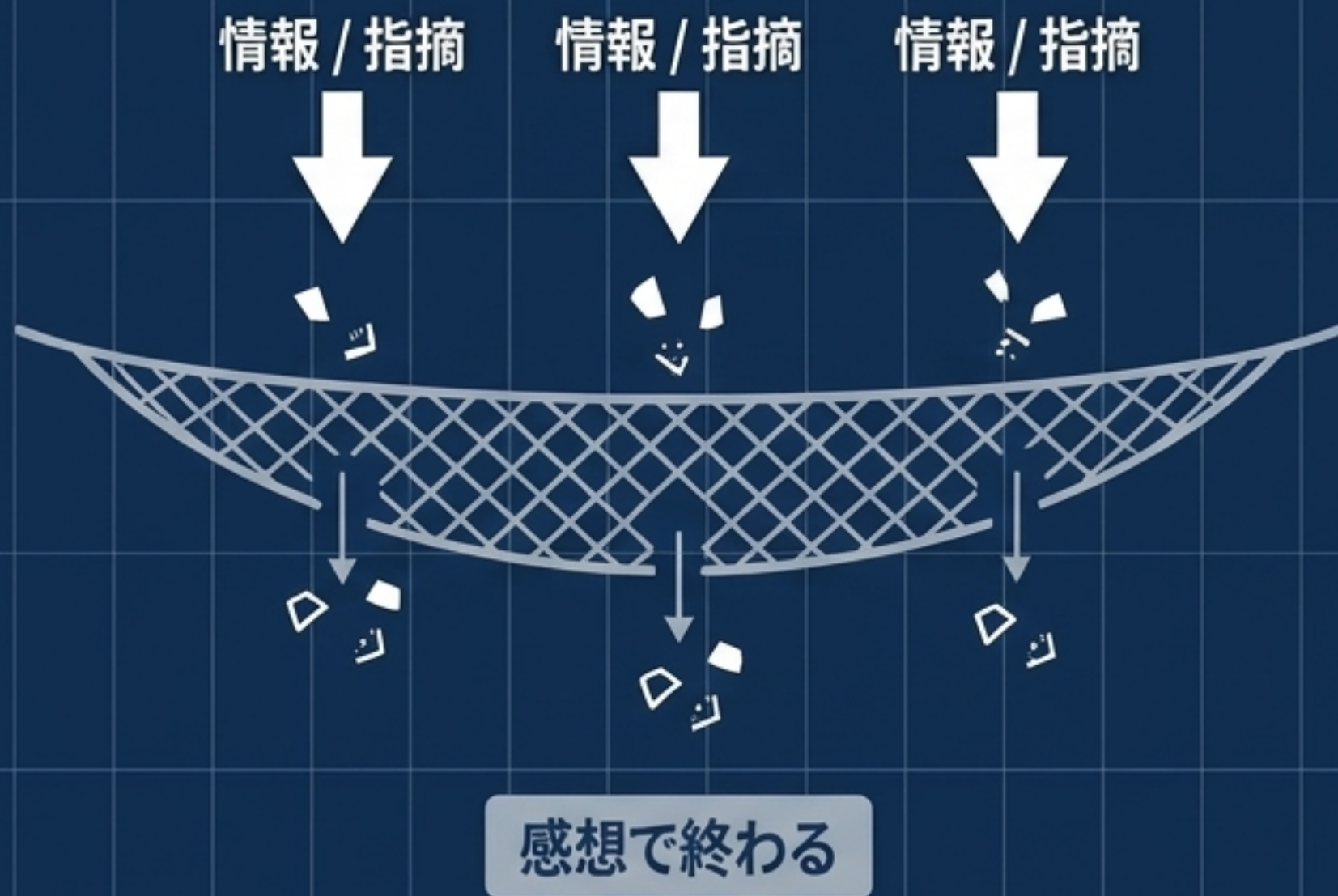
自分から向き合い、
判断を変える人

「なるほど」で
終える人

時間

学びの価値は「うなずいた深さ」ではない。

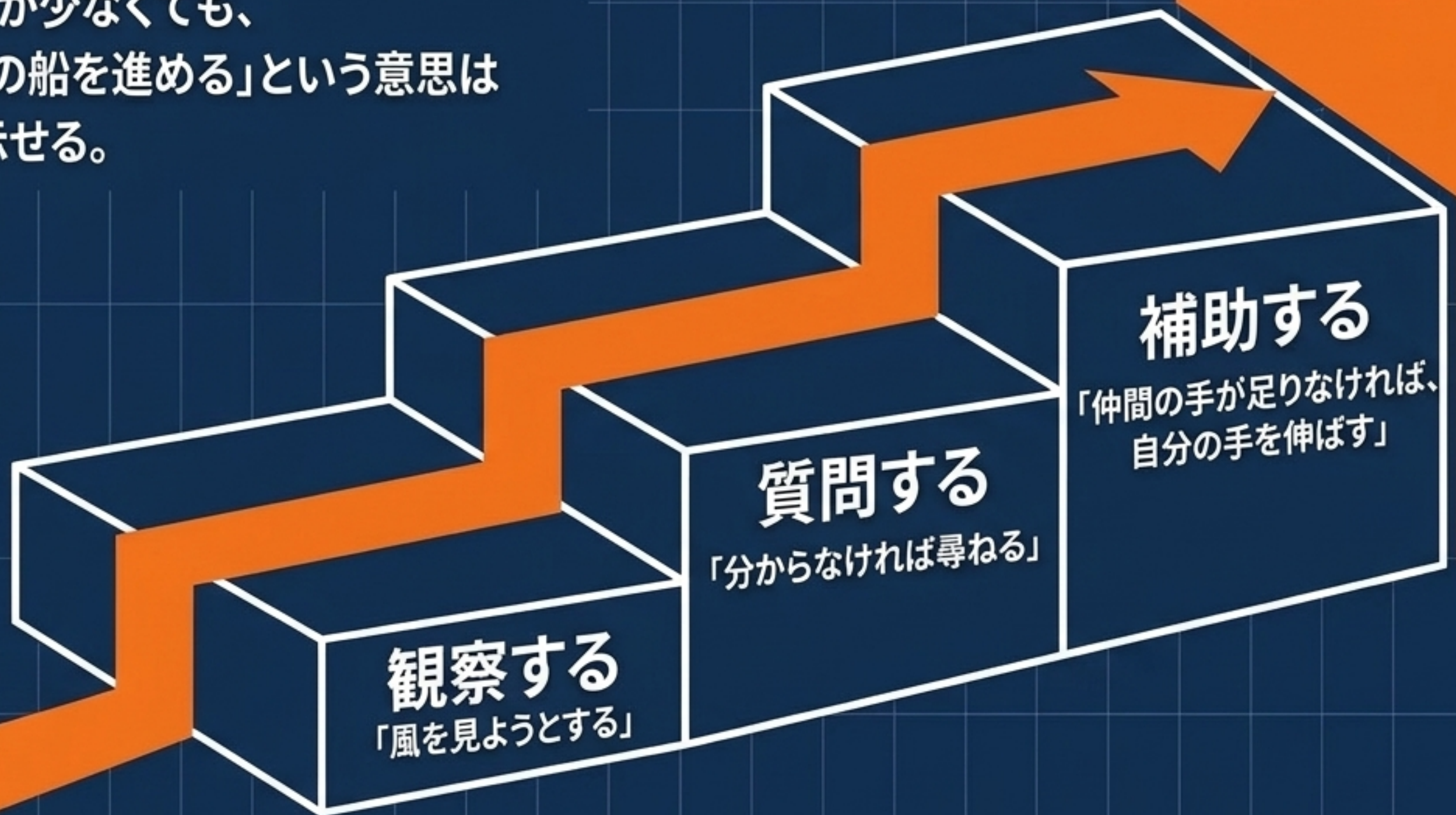
「勉強になりました」「刺激を受けました」
どれも、そこで止まればただの感想だ。



最初から高い実力が必要なわけではない。

意思

できることが少なくても、
「自分もこの船を進める」という意思是
今日から示せる。



The Crew's Cycle：乗組員の無限ループ

良い環境にいることはスタート地点に過ぎない。
「自分が乗ったことで、この船に何を返せたか」
が問われている。



船が変わった。
その間、自分は何を変えたのか。

「この船に乗れてよかった」で、終わらない。